

点検ハンマー

第7号 発行日 2010年 5月5日 発 責 石尾 光春・編 集 地本車技常任委員会

双眼鏡を使って社員を監視する! ?

4月28日16時45分頃、東京修繕車両所の社員たちが夜出の点呼前に掲示物を見ていると金山検修科長が近寄ってきて、驚くことを言いました。「双眼鏡ですっ~とここ（総合事務所6階窓）から社員の庫の横断を見ていた」この言葉に社員たちは驚くと同時に、会社は常に私たちが双眼鏡も使いながら監視している!と恐怖しました。金山科長にとっては「双眼鏡で社員を監視することは管理者として当然の行為! どこからでもお前たちの行動は見ているんだぞ!」ということなののでしょうか?社員に徹底的に恐怖心を植え込めば、安全が守れ、労災は防げるのでしょうか??

107名の犠牲者をだした、JR西日本福知山線脱線事故から5年が経ちました。この事故の背景に、日勤教育への恐怖心が、運転士を暴走させてしまったと、JR西日本の企業風土が問われました。JR西日本は更に昨年9月、事故調査委員会の委員に裏工作を行い、報告書の不都合な部分の削除や修正を求めていた「情報漏洩」が発覚しました。4月23日には神戸第一検察審査会はJR西日本歴代社長3人の強制起訴（山崎元社長はすでに在宅起訴）をしました。いま尚、事故の被害者、家族を失った遺族の方々、市民はJR西日本を許してはいません。JR西日本会社幹部は「他社との競争、経営の基盤の弱さがあり、やむを得なかった」と言い訳をしています。

JR東海会社・金山科長や、電車や物陰に隠れて社員監視している他の管理者の言い分は「決められたことを守らないお前たちには、これぐらいしないとダメなんだ! 労災は防げないんだ!」ということなののでしょうか??JR西日本はATSを設置するより、社員に恐怖心を植えつける社員管理を選びました。JR東海も同じように、私たちが稼いだお金はリニアに注ぎ込まれ、車両所の設備は至るところで老朽化が進んでいますが、設備は改善されず、ただただ社員に我慢と「基本動作の励行」を押しつけています。

社員は管理するもので、意見を聞く必要はない!というのが葛西会長が副社長の時代から一貫して続いているJR東海の姿勢です。社員に監視されている恐怖を与えながら「安全教育」をして、果たして事故は防げるのか甚だ疑問です。

突然管理者の呼び出しが…!!ある日突然あなたは管理者に呼び出され「安全確認ができていない!」と怒鳴られるかも知れません。理由は簡単! 人間はより便利な物を使いたがる。双眼鏡が、大井基地で60台も増設されたと言われる監視カメラに代わっただけのこと。検修庫、総合事務所など、基地内の監視カメラを使えば「社員の監視」は容易なことです。しかし、その先に待っているのは、**見えない管理者の視線に怯えた社員に起因する悲惨な鉄道事故かも知れません……**

過日、JR東日本にも『点検ハンマー』を読んでいる人がいるよと教えられ驚きました。JR東海のことを少しでも参考になればと願っています。